

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会		
事務局 (担当課)		生涯学習部博物館 電話 042-750-8030		
開催日時		令和3年7月9日(金)～7月16日(金)		
開催場所		書面会議		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	5人(博物館長、他4人)		
公開の可否		<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	—
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため		
会議次第		1 あいさつ 2 議題 (1) 相模原市立博物館活動評価書について (2) 令和2年度博物館事業報告 (3) 令和3年度博物館事業計画について (4) その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染拡大防止に鑑み、対面での会議を避け、議決の方法等について事前に取り決めを行った上で、書面により審議会委員等の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

2 議 題

(1) ～ (3) の議題について次のとおり各委員から意見があった。

(1) 相模原市立博物館活動評価書について

(遠藤委員) 定量評価も定性評価もわかりやすく、的確に表記されており、当博物館の活動の現状と問題点が客観的に評価できるものとなっていると思う。有識者の意見も要点をよく汲み上げられて簡潔であり、ポイントを得てまとめられている。

(五十里委員) ホームページによる情報発信については展示にかかる解説等、深い研究内容もあり、内容がとても充実していると拝察する。感染症防止対策における意味においても、配信は意義深いと思う。

半面、展示のトピックだけをアピールする配信により、実物・本物を見たいという気持ちになってもらい、さらに来館していただくと、より実感的な理解となったなど、学芸員の解説を伺うことでより関心が高まったと思ってもらえるよう、発信段階の情報量をコントロールしてもよいのではないかと思う。

企画展など、新しい切り口の展示については、多くの方に関心を持ってもらい、来館したらこんな発見があったといった期待感をもたせる宣伝効果をねらうとよいと思う。

(岩野委員) 博物館の活動評価(定性評価)について、各項目ごとに記述された「市民による評価」および「有識者意見」は、大変参考にすべきコメントが記述されていると思う。そのすべてを実現あるいは実施することはすぐには困難かと思われるが、少しでも具体化できるように、今後とも努力と尽力をお願いしたい。

(戸塚委員) 博物館の真の理念を元にして目標を立てている姿が窺える。又それなりの自己評価も行っている。内容的にも間口が広がっているように感じられる。

広報活動は市の広報部門の掲示等で行われているがそのような所へ行かない人には目につかない。特に関心のない人には目に付かない。それに対して良い方法はないだろうか。そんな中でも、博物館とJAXAとの連携は強みである。今後も継続してやってほしい。

常設展示は適度なリニューアルが必要である。説明者がいなくともわかる方法も考える必要がある。前に立ってボタンを押したら説明されるような形も一考であろう。

(沼澤委員) 評価書、年報ともにとってもわかりやすくまとめられていると感じた。相模原の将来を担う子どもたちの為に、今後も尽力していただきたい。

(谷内委員) 橋本図書館や相模大野図書館との連携強化もあればよい。図書館や相模大野図書館は、公共交通機関が充実しており、乗降人数が多いため、博物館の存在を広くアピールできるのではないかと思う。

(浜田委員) 定量評価と定性評価がきちんとされており、良いと思う。とくに社会教育機関である博物館においては、定性評価が重要であることは言うまでもない。

(事務局) 評価書については教育委員会へ報告後、博物館ホームページで公開予定である。また、今回いただいた意見については次回の評価の参考とさせていただきたい。

(2) 令和2年度博物館事業報告

(遠藤委員) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当博物館の活動計画も大幅に変更された。中止、延期した事業が34件ののぼり、中には開館25周年記念事業のプラネタリウムでのコラボレーションイベントも含まれており、残念であった。

しかし、感染防止に配慮して可能な限り企画展や展示を実施したことは博物館としてもよい経験になったと思われる。動画配信による取組は、今後の博物館活動のさらなる拡大につながるといえる。また、相模原市立博物館のホームページのリニューアルは、素晴らしい結果となっていると思う。

(岩野委員) 特に感じたことは、令和2年度に予定されていた多くの事業(全42件)のうち、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止になったり延期になったりした事業が34件もあり、年間の事業計画や活動方針に恐らくは大きな支障をきたしたのではないか

と懸念する。そのためか、例年だと平均約13万人もの年間入館者数であったものが、令和2年度では49,770人と大幅に減少したことはやむを得ないこととはいえ、残念な結果であった。何とか令和3年度内には同感染症の拡大が終息して、より多くの市民が安心して博物館を訪問してくれるようになることを切に祈りたい。

(戸塚委員) 市の重点目標に沿い各所で一生懸命やっている一方、突然のコロナ禍で大変だったと思われる。その中いろいろ工夫されての開館で苦勞が伺える。そんなコロナ禍で実施できなかったものは今後徐々に生かしていただきたい。無駄にしない工夫を願う。

関連施設の「尾崎罌堂記念館」と「吉野宿ふじや」の活動も難しい。交通の便などの問題もあり、課題が多いと考えられる。

(浜田委員) 未曾有の事態である新型コロナウイルス感染防止のための休館や、諸対策への対応は、大変だったことと思われる。

臨時休館に伴い、多くの事業が中止となったことは残念だが、そんな中、平成22年の「はやぶさ」に続き、「はやぶさ2」の帰還カプセルについても世界初公開が実現できたことは、大変喜ばしいことといえる。コロナ禍の渦中ながら、感染対策を取りつつ、パブリックビューイングや公開展示が実施されたことは、当博物館の社会的認知度の向上にもつながったものと考えられる。

(事務局) 緊急事態宣言により8月6日から休館となっており、企画展やプラネタリウムをはじめ夏休みのイベントも中止となった。ウェブによる発信など、代替的にできることを模索しているところである。

(3) 令和3年度博物館事業計画について

(五十里委員) 令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の中での運営につき、ご苦勞があることが推察される。

高校でも美術館に関わることが多いが、同じ向きを向いて展示見学できる状況はこうしたコロナ禍でも比較的安心安全を担保できる、と評価されていると聞き及ぶ。学校も生徒の安全を最優先にしながら教育活動と感染対策を両立させなければならない状況である。変異ウイルスには注力しつつも、是非、各企画が実施できることを願っている。

(遠藤委員) 今後の新型コロナウイルス感染症の収束状況次第だと思うが、出来るだけ事業予定が実施されることを願う。7月17日からスタートする博物館と公文書館共済の相模原町誕生80年企画「軍都

さがみはら展」は、個人的にも楽しみにしているので成功を祈っている。加えて、JAXAとの連携企画や学習資料展をはじめとする大小様々な継続事業等が例年通りに催行されることを期待する。

(戸塚委員) コロナ禍の中での事業計画、内容はそれぞれ素晴らしい。しかしコロナ禍での実施は思うように行かないと思う。無理をしないで次を待つことも考慮されたい。

(谷内委員) コロナ対応が、日々変更されるため、ご対応が大変困難と推察される。ワクチン接種のひろがり、日常が戻ることを願っている。

(浜田委員) コロナ禍収束への出口はなかなか見えないが、今年度の事業は、中止が相次がないようになることを望んでいる。

(4) その他

(遠藤委員) 予算の問題もあると思うが、国立科学博物館のようなVR体験を当博物館も出来るようになれば、事情により来館出来ない市民の人々にも、相模原の歴史や自然等を知ってもらう機会になるかもしれない。

(戸塚委員) コロナが落ち着くまで出来る範囲での行動をしていただきたい。

(谷内委員) 協議会委員任期が、ほぼコロナ対応期間と重なり、委員として何もできないことが大変残念である。居住しているマンションに掲示したいので、企画展等のパンフレットなどあればお送りいただきたい。

(林委員) 今後コロナが収まったら、ミニの展示を大きい展示にしたり、臨機応変に対応出来ると良いと思う。

市内中学生が博物館で学ぶ機会があったり、今後開館30周年に向けて、市内の高校生とコラボ出来る企画があると楽しいと思う。体験出来る、触れる事が出来る、そうしたことが増えると良いのではないか。

(事務局) コロナ禍により博物館の活動も先が見通せない状況が続いている。こうした中で博物館として発信できること、今だからやるべきことを見極めて、市民の生涯学習の場の創生に努めていきたい。

(事務局) 次回は10月に開催予定である。

以 上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	備 考	選出区分	出欠席
1	沼澤 俊宏	市立内郷小学校校長	学校教育	出席
2	五十里 雅子	県立弥栄高等学校副校長	同	出席
3	戸塚 厚生	市文化財研究協議会会長	社会教育	出席
4	林 さとみ	市立小中学校P T A連絡協議会副会長	同	出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	家庭教育の向上に資 する活動を行う者	欠席
6	岩野 秀俊	日本大学生物資源科学部特任教授	学識経験者	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学人文学系長・教授	同	出席
8	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 副所長	同	欠席
9	遠藤 正典	市民公募	市の住民	出席
10	谷内 夢賀子	市民公募	同	出席